

第2回稲毛区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【1】開催

日 時：平成25年10月29日（火）午前11時～午後12時

場 所：稲毛保健福祉センター 3階 大会議室

出席者：委員定数 31人

出席委員数 22人

事務局 9人 オブザーバー 1人

【2】次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 報告事項

（1）区地域福祉計画の推進に関するアンケート調査について（資料1）

（2）各分科会での検討内容について

ア 第1分科会「活動の中核となれる人材の発掘」について

イ 第2分科会「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る」について

4 協議事項

（1）支え合いのまち 稲毛（稲毛区地域福祉計画推進協議会だより）について（資料2）

5 その他

（1）第3回推進協議会の開催について

6 閉会

【3】議事要旨及び発言要旨

3 報告事項

（1）区地域福祉計画の推進に関するアンケート調査について

当区高齢障害支援課 鈴木係長より、資料1「区地域福祉計画の推進に関するアンケート調査結果」を用いて説明。

主な発言は以下のとおり。

（鈴木係長）185町内自治会へアンケートを送付し、135町内自治会から回答（回答率約73%）、11地区部会にアンケートを送付し、11地区部会から回答（回答率100%）がそれぞれありました。傾向として、町内自治会では基本方針1「地域に住む人々が、お互いを知り、理解することから始めよう」と、基本方針5「日頃からの緊急時に備えた取組み」、また地区部会においては、基本方針3「『気軽に、楽しく、おしゃべりしたり、過ごせたり、活動したり』するみ

んなの居場所づくり」と、基本方針5に対する実践が多くなっている状況です。

次に、現在実施していないが今後取り組む予定のある項目として、町内自治会では基本方針2「人と人とのつながりをつくり、活かし、支え合い助け合う地域での連携プレー」と、基本方針5「日頃からの緊急時に備えた取組み」、また地区部会においては、基本方針2及び基本方針4「身近なところで必要な情報を得ることができる仕組みづくり」に対する実践予定が多くなっている状況です。

最後に、現在実施しておらず今後も実施の予定がない項目としてですが、多かったのは町内自治会、地区部会とも基本方針2の取組項目のうち、「コーディネートの組織と連携」に対して取り組む予定がないとの回答でした。

(2) 各分科会での検討内容について

第1分科会「活動の中核となれる人材の発掘」についての検討内容を井村委員、第2分科会「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る」についてを瓜生委員より、それぞれ報告があった。

ア 第1分科会「活動の中核となれる人材の発掘」について

主な発言は以下のとおり。

(井村委員)・本重点項目の推進にあたり、民生委員や福祉活動推進員が研鑽や情報の収集にあたることができる、そこで得たものを地域に広げ、リーダー的存在で活動していただきたいし、その使命があるのではないかと話がありました。

・「人材の発掘」という言葉が、和気あいあいを大事にする自治会活動や地域福祉活動になじまないのではないか、との話もありました。

・「活動の中核となれる人材の発掘」のアンケート結果を見ると、町内自治会は今後も活動する予定がないとの回答が大きな割合を占めています。今あるポストを挿げ替えてまで、新しい人を入れる訳にはいかないといった実情もあるようで、つまりチームがチームワークをもって活動にあたっている中、新しい人を入れるのは難しいという裏事情もある、との話も出ました。

・いずれ担い手の世代交代はしなければならないが、現状のチームを崩してまで新しい人を入れる必要があるか、そういう話に尽きるのではないかという意見もありました。

・新しい人材の発掘の機会はあるが、活動の中に取り込むまで行かない。中核となる人材候補をどのように取り込んでいくか、どこまで活動に参加していただくか、それらを進めるための広報活動の工夫も現役員の中で果たさなければならないのではないかという話も出ました。

・今後、また新たな議論が出て、その議論ひとつひとつが活動の参考になるの

ではないかという話も出ました。

イ 第2分科会「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る」について

主な発言は以下のとおり。

(瓜生委員)・防災に関する講演会、防災訓練、避難所運営委員会などの動きはあるが、なかなか関心を持ってもらえない現状があり、住民一人ひとりに危機意識を持って頂くためにはどうしたらいいか、という話がありました。

- ・そのためには、若い住民が参加する地域イベントの中で、防災に関する時間を設けてはどうか、数多くの行事の機会に幾度となく防災について触れ、意識を高めてもらう働きかけが必要であるとの話になりました。

- ・日赤奉仕団員を増やしてはどうかとの意見が出ました。団員の専門的知識や技術を活かし、地域の防災のリーダーになってもらってはどうか。稲毛区赤十字奉仕団は、先の赤十字県大会救急法フェスタにおいて、県第3位の輝かしい成績を収めた優秀な団体です。実力はあるが、団員が少ないのが悩みとなっており、高齢の団員に加え、若い団員を増やし、防災への意識を広げていく必要があるのではないかとの話がありました。

- ・先日、稲毛区では大型台風による水害が発生し、避難勧告が発令されましたが、自分の住む地域の環境を知ることが大切であり、自分の地域にはどういうことが問題なのか、どういうことを考えておけばよいか、ということを皆さんが知っておく必要があるのではないかという意見が出ました。また、行政からも危険個所の情報等は漏れなく区民に周知願いたいという話も出ました。

- ・安否確認の方法について、「無事ですカード」を使っているところが沢山あることが話の中で分かりました。また、カードを使った訓練では30%強の参加者が用意したカードを活用して訓練されていたそうです。その活動で大切なことは、まずは自助をし、次に周囲を助ける、そういうことが仕組みとして地域に必要なのではないかとの話も出ました。

- ・集合住宅ではコミュニティの取りやすさを踏まえ、階段単位での会議や住民相互の把握が重要であり、階段ごとの活動のもとで防災意識を高めていくこと、さらなる広がり的手段として、区連協の理事会に働きかけ、そこから各自治会へ話をおろし、すそ野を広げていったらどうかとの話が出ました。

4 協議事項

(1) 支え合いのまち 稲毛（稲毛区地域福祉計画推進協議会だより）について（資料2）

千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所 鈴木主任主事より、広報委員会開催報告及び紙面の編集内容、発行予定時期、並びに配付資料「支え合いのまち 稲毛 No.14（案）」について、また支え合いのまち 稲毛掲載依頼書について説明。

5 その他

(1) 第3回推進協議会の開催について

当区高齢障害支援課 鈴木係長より説明。

(鈴木係長) 次回の推進協分科会、本会議について、来年の2月27日木曜日の午前中の開催を考えていますが、委員の皆さん如何でしょうか。

(委員長) ただいまの件について、如何でしょうか。

(委員) 異議なし。

(委員長) では、決定とします。全ての議事が終了しました。事務局へ戻します。

(事務局) 各委員におかれましては、本日の各分科会及び本会議の内容を地域の役員会等においてご説明いただき、事業推進ができるよう体制づくりをお願いします。
また、昨年度より取り組んでいただいている2つの重点取組項目についても、進捗状況を確認願いますとともに、引き続き推進に向け取り組んでいただくようお願いします。

次回の区推進協議会は平成26年2月27日(木)に開催を予定しています。

事務局が閉会を宣し、第2回稲毛区地域福祉計画推進協議会は散会。